学校における医療的ケア実施体制充実事業
（医療的ケアのための看護師に対する研修機会の確保）

令和３年度
文部科学省
委託事業

指導的な役割を担う看護師に求められる研修の全体像（案）

公益財団法人　日本訪問看護財団

はじめに

近年、医療技術の進歩と医療提供体制の整備を背景として、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、喀痰吸引や経管栄養等の医療的ケアが日常的に必要な児童生徒等（以下、医療的ケア児とする）が増加している。平成31年3月の文部科学省の通知によれば、「学校で医療的ケアを行う場合には、教育委員会において、看護師等を十分確保し、継続して安定的に勤務できる体制を整備するとともに、各学校に医療的ケア児の状態に応じた看護師等の適切な配置を行うこと」、「各学校においては、看護師等を中心に教職員等が連携協力して医療的ケアに当たること」を基本的な考えとされている。さらに、令和3年9月には、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」（以下、医療的ケア児支援法）が施行され、医療的ケア児とその家族への支援が、国、地方公共団体等、保育所の設置者等、学校の設置者の責務として示された。

このような社会的背景の中で、医療的ケア児の教育の場は、特別支援学校に限らず小中学校等へと拡がりをみせている。医療的ケア児の人数には地域差があり、年度ごとの変動も認められることから、医療的ケア看護職員の配置の在り方は必ずしも固定的なものでなく、各地域の実情に即した体制づくりが試みられている。また、医療機関とは異なる環境で他職種と協働しながらケアにあたる看護師は、医療的ケアの実施に限らず、より多様な役割が求められている。これらの社会的ニーズに応える上で、指導的な役割を担う看護師を育成し、配置することが、喫緊の課題である。

本事業では、先ず、指導的役割を担う看護師の役割（職務内容）と期待される能力、希望する研修内容について、実際に指導的役割を担う看護師へのインタビューの結果から抽出し、有識者の知見に基づき整理した。さらに、「指導的な役割を担う看護師に求められる研修の全体像（案）」（以下、研修の全体像（案））では、インタビュー調査等で見出した指導的役割を担う看護師の役割に基づき研修項目と、その研修受講により期待される主な役割を整理することで、指導的役割を担う看護師への研修企画の工程を示した。教育委員会や研修の対象者のニーズに合せて、研修テーマを設定することや、企画者と参加者がそのテーマを意識して取り組むことを重視した内容となった。さらに、研修の全体像（案）に基づき、モデル研修の企画に取りくみ、全国の指導的役割を担う看護師から参加者を募り研修を開催した。参加者の評価等に基づき、研修の全体像（案）に基づくモデル研修を検証した。

今後、本研修の全体像（案）を参考にされ、教育委員会において研修企画の立案、実施、評価に取り組まれる際に、指導的役割を担う看護師を育成、支援することができれば、医療的ケア児の教育体制の充実のみならず、指導的役割を担う看護師自身の達成感、ひいては職場への定着率の向上につながることが期待される。

令和４年３月

令和 3 年度文部科学省委託事業
学校における医療的ケア実施体制充実事業

有識者会議
座長　奈良間　美保

目 次

はじめに

1 指導的な役割を担う看護師の「役割」と求められる「能力」 …… p.2

2 指導的な役割を担う看護師が希望する研修 …… p.3

3 指導的な役割を担う看護師に求められる研修の全体像（案） …… p.4

4 研修項目と各学習内容 …… p.5

Ⅰ．総論

Ⅱ．各論

1. 医療的ケア看護職員のための医療的ケア実施体制整備
2. 医療的ケア看護職員の支援
3. 医療的ケア看護職員の指導と育成
4. 組織としての医療的ケアの管理
5. 特定行為業務従事者を含む教職員の支援
6. 校内の多職種との連携・協働
7. 学校医や主治医等との連携・協働
8. 医療的ケア児の学校生活の総合的な支援
9. 保護者を尊重した支援
10. 地域の特性や資源に応じた連携・役割

5 研修企画のプロセス …… p.17

- step1 研修ニーズの把握
- step2 目的•目標の設定
- step3 受講対象者の決定
- step4 研修項目と学習内容の検討
- step5 研修方法の選択

6 活用事例の紹介 …… p.19

1 指導的な役割を担う看護師の「役割」と 求められる「能力」

本事業では指導的な役割を担う看護師 10 人に対して行ったインタビュー調査結果から、指導的な役割を担う看護師の「役割」について「医療的ケア看護職員のために体制を整備する」、「医療的ケア看護職員を支援する」等、10 の役割に整理しました。これらの役割は、平成 31 年文部科学省通知〔※「学校における医療的ケアの今後の対応について（通知）」（平成 31 年 3 月 20 日付け 30 文科初第 1769 号文部科学省初等 中等教育局長通知） ここでは「平成 31 年文部科学省通知」と標記する。〕の内容を網羅しているものでし たが、さらに新たな役割も見出されました（**図表 1**）。

これらの役割を遂行するために求められる指導的な役割を担う看護師の「能力」は、「学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力」、「医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力」等、6 の能力に整理しました（**図表 2**）。

図表 1　調査結果：指導的な役割を担う看護師の「役割」のカテゴリ

指導的な役割を担う看護師の 「役割」		平成31年文部科学省通知との比較 該当する役割
1	医療的ケア看護職員のために体制を整備する	・外部関係機関との連絡調整 ・看護師等の業務調整
2	医療的ケア看護職員を支援する	・看護師等の相談・指導・カンファレンスの開催
3	医療的ケア看護職員を育成する	・看護師等の相談・指導・カンファレンスの開催 ・研修会の企画・運営
4	組織としての医療的ケアを管理する	・外部関係機関との連絡調整
5	認定特定行為業務従事者を含む教職員を支援する	・医療的ケアに関する教職員からの相談
6	校内の多職種と連携・協働する	・医療的ケアに関する教職員からの相談
7	学校医や主治医等と連携・協働する	・外部関係機関との連絡調整
8	医療的ケア児の学校生活を総合的に支援する	・医療的ケア看護職員の役割に加えより高度な役割を含む
9	保護者を尊重しながら支援する	・医療的ケア看護職員の役割に加えより高度な役割を含む
10	地域の特性や資源に応じた連携・役割をとる	

参考

「学校における医療的ケアの今後の対応について」

文部科学省　平成 31 年 3 月 20 日（一部抜粋）（一部改変）

「別添 1」学校における医療的ケアの実施に当たっての役割分担例（p.15～）

※本資料は、教育委員会や学校の参考となるよう、標準的な役割分担を整理したものである。

○ 看護師等

・医療的ケア児のアセスメント　・医療的ケア児の健康管理　・医療的ケアの実施
・主治医、学校医、医療的ケア指導医等医療関係者との連絡・報告　・教職員・保護者との情報共有
・認定特定行為業務従事者である教職員への指導・助言　・医療的ケアの記録・管理・報告
・必要な医療器具・備品等の管理　・指示書に基づく個別マニュアルの作成
・緊急時のマニュアルの作成　・ヒヤリ・ハット等の事例の蓄積と予防対策　・緊急時の対応
・教職員全体の理解啓発　・（教職員として）自立活動の指導等

※指導的な立場となる看護師
（上記看護師等に加え）

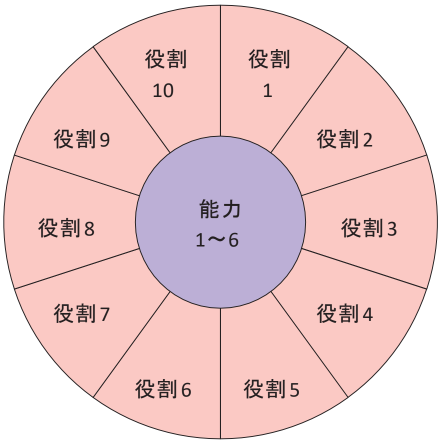
- **外部関係機関との連絡調整**
- **看護師等の業務調整**
- **看護師等の相談•指導•カンファレンスの開催**
- **研修会の企画•運営**
- **医療的ケアに関する教職員からの相談**

図表2　調査結果：指導的な役割を担う看護師に求められる「能力」のカテゴリ

指導的な役割を担う看護師に求められる「能力」	
1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

役割と能力の概念図は本事業で整理した指導的な役割を担う看護師の 10 の役割と 6 の能力の関係を表したものです（図表 3）。ひとつひとつの役割を果たすために、すべての能力が必要とされることから、6 つの能力は核のような位置づけになります。

図表3　役割と能力の概念図



指導的な役割を担う看護師の「役割」	
1	医療的ケア看護職員のために体制を整備する
2	医療的ケア看護職員を支援する
3	医療的ケア看護職員を育成する
4	組織としての医療的ケアを管理する
5	認定特定行為業務従事者を含む教職員を支援する
6	校内の多職種と連携・協働する
7	学校医や主治医等と連携・協働する
8	医療的ケア児の学校生活を総合的に支援する
9	保護者を尊重しながら支援する
10	地域の特性や資源に応じた連携・役割をとる

指導的な役割を担う看護師に求められる「能力」	
1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

2　指導的な役割を担う看護師が希望する研修

指導的な役割を担う看護師 10 人に対して行ったインタビュー調査結果から、本事業においては、指導的な役割を担う看護師が希望する研修について、「看護の質保証（成長発達、ヒヤリ・ハットの共有・看護師支援）」、「多職種連携の方法（コミュニケーションを含む）」等、主に 7 の研修項目として整理しました（図表 4）。

指導的な役割を担う看護師としての研修ニーズは、自治体の状況や本人の経験等をはじめとする背景が様々であることから、まずは研修ニーズを把握することが肝要です。

図表4　指導的な役割を担う看護師が希望する研修

指導的な役割を担う看護師が希望する「研修」	
1	看護の質保証（成長発達、ヒヤリ・ハットの共有・医療的ケア看護職員支援）
2	多職種連携の方法（コミュニケーションを含む）
3	看護職員間の情報共有・交流
4	教育現場・組織・法的背景の知識
5	保護者の支援（保護者からの学びを含める）
6	最新の医療および制度
7	看護管理・研修企画

3 指導的な役割を担う看護師に求められる研修の 全体像（案）

指導的な役割を担う看護師の「役割」を基に、指導的な役割を担う看護師に求められる研修の全体像（案）を 10 の研修項目として整理しました（**図表5**）。 研修を企画する際に受講者や教育委員会のニーズを前提に、期待される役割を設定して（選択して）研修内容を決めることができます。

図表5 指導的な役割を担う看護師に必要な研修の全体像（案）

研修項目		研修受講により期待される主な役割
1 p.8	医療的ケア看護職員のための医療的ケア実施体制整備	1. 医療的ケア看護職員の相談対応のための連絡体制の整備
		2. 医療的ケア看護職員の業務調整
		3. 医療的ケア実施環境の整備
		4. 医療的ケア看護職員採用面接のための基準や必要な知識
		5. 多職種や医療的ケア看護職員間の情報共有方法の整備・確立
2 p.9	医療的ケア看護職員の支援	1. 医療的ケア看護職員の相談・助言の対応
		2. 学校や医療的ケア児の状況にあわせた対応
		3. 医療的ケア看護職員の心情に配慮した対話
		4. 医療的ケア看護職員の把握・理解
		5. 医療的ケア看護職員の気づき・判断・行動の支援
		6. 関係者と連携した相談・助言への対応
		7. 所属を越えた医療的ケア看護職員への支援
3 p.10	医療的ケア看護職員の指導と育成	1. 医療的ケア看護職員の育成
		2. 医療的ケア児を中心とした看護の指導
		3. 他職種との連携についての指導
		4. 教育現場に関わる指導
		5. 成長発達という看護の視点の確認
		6. 学校生活を支えることを目的とした医療的ケアの位置づけでの確認
		7. 多職種に医療的ケア看護職員への指導・助言の依頼
		8. 医療的ケア看護職員への研修企画・開催
4 p.11	組織としての医療的ケアの管理	1. 医療的ケアガイドラインの作成と評価への参画
		2. 新たな情報活用
		3. 医療的ケアに関する委員会への参加
		4. 学校間の情報共有と情報を活用した相談対応
		5. 多角的な情報からの課題検討
		6. 所属を越え広く情報収集
		7. ヒヤリ・ハット対応
5 p.13	認定特定行為業務従事者を含む教職員の支援	1. 教職員の相談・助言への対応
		2. 教職員の医療的ケアに関する知識や技術への支援
		3. 教職員との対話
		4. 教職員の気づきや行動の支援
		5. 教職員の視点の尊重
6 p.14	校内の多職種との連携・協働	1. 教職員と医療的ケア看護職員の協働の支援
		2. 多職種連携のコーディネーター
		3. 看護職員の代表としての多職種連携の実践
		4. 医療的ケア児を中心とした協働
		5. 調整上の多職種への配慮
		6. 組織内の報告・情報共有
7 p.15	学校医や主治医等との連携・協働	1. 学校医や主治医等との協働体制構築
		2. 学校医や主治医等との連携・調整
		3. 学校医や医療的ケア指導医等の巡回同行・調整
8 p.16	医療的ケア児の学校生活の総合的な支援	1. 医療的ケア児への関わり
		2. 安全で確実な医療的ケアの実践
		3. 限られた時間内での医療的ケア児の情報収集とアセスメント
		4. 児童生徒の障害の状態や必要となる医療的ケアの内容の判断とその共有
9 p.17	保護者を尊重した支援	1. 保護者との対話
		2. 保護者の心情の理解
		3. 保護者からの相談対応・情報共有
		4. 保護者との医療的ケアに関する調整
		5. 家族主体の支援
10 p.18	地域の特性や資源に応じた連携・役割	1. 地域の特性や資源の把握
		2. 地域との連携強化
		3. 地域連携による医療的ケア児の支援

4 研修項目と各学習内容

1）指導的な役割を担う看護師の研修：総論

指導的な役割を担う看護師が、まず押さえておくべき主な学習内容です。主に、初めて学校における医療的ケアに関わる、または初めて自治体に所属する等の受講者を想定した内容です。

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="2">Ⅰ．総 論</th></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・自治体、教育委員会、学校等の体制（指示命令系統等）
・自治体における業務上の手順等
・医療的ケア看護職員の所属先（学校等）の医療的ケア児・看護職員の配置状況等
・多職種の各役割等
（知識•技術の強化）
・学校教育について（法制度、学習指導要領、教育課程等）
・特別支援教育について（自立活動、個別の教育支援計画、個別の教育指導計画等）
・医療的ケア児とは
・学校における医療的ケアとは
・医療的ケア看護職員とは
・指導的な役割を担う看護師とは
・主に学校で行われる医療的ケアとリスク管理
（議論•検討•事例検討等）
・自治体、配置先における自身の役割の検討
（演習）
・医療的ケア技術演習
・OJT 等</td><td>（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・人員配置、勤務計画
・ワークライフバランス、労働災害
・関係法令等
（参考：講義資料の提案）
・令和元年度文部科学省委託事業（学校における医療的ケア実施体制構築事業)｢学校における医療的ケア実施対応マニュアル」公益財団法人日本訪問看護財団
PDF/PPT スライド
https://www.jvnf.or.jp/kenkyukaihatu.html
・令和 2 年度文部科学省委託事業（学校における医療的ケア実施体制構築事業)｢学校の看護師としてはじめて働く人向けの研修プログラム」みずほ情報総研
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/h30/1420893_00018.htm</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="2">教育委員会担当者（指導主事等）
管理職
教職員（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
看護系学識経験者
教育系学識経験者
医療的ケア指導医
指導的な役割を担う看護師　等</td></tr>
</table>

2）指導的な役割を担う看護師の研修：各論

受講者の研修ニーズに合わせて選択します。

<table>
<tr><th colspan="3">Ⅱ．各論</th></tr>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="2">1. 医療的ケア看護職員のための医療的ケア実施体制整備</th></tr>
<tr><td rowspan="6">期待される主な役割</td><td></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td>1. 医療的ケア看護職員の相談対応のための連絡体制の整備</td><td></td></tr>
<tr><td>2. 医療的ケア看護職員の業務調整</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 医療的ケア実施環境の整備</td><td></td></tr>
<tr><td>4. 医療的ケア看護職員採用面接のための基準や必要な知識</td><td></td></tr>
<tr><td>5. 多職種や医療的ケア看護職員間の情報共有方法の整備・確立</td><td></td></tr>
<tr><td>主な学習内容（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・自治体、教育委員会、学校等の体制
・医療的ケア看護職員の所属先（学校等）の医療的ケア児・看護職員の配置状況等
・医療的ケア看護職員の相談対応の体制（巡回体制・電話による相談体制等）
・医療的ケア看護職員の代替勤務体制
・教育委員会や学校の雇用条件、雇用形態等
・新たに医療的ケアを実施する際の手続き等
・医療機器、衛生材料等の管理
・医療的ケア児の入学から卒業までの流れ
・医療的ケア児の情報共有と情報管理の実際
（知識•技術の強化）
・学校における医療的ケアについて
・医療的ケア児支援法等の法令について
・PDCA（Plan—Do—Check—Act）サイクル（問題解決思考）
・情報漏洩、紛失等のリスク管理
・医療的ケア看護職員の適正
・指導的な役割を担う看護師の実践報告
（議論•検討•事例検討等）
・自治体における医療的ケア看護職員の相談対応体制の課題と解決策の検討
・医療的ケアの安全と質確保のための配置体制への配慮等の検討
・医療的ケア看護職員同士のネットワーク構築の課題と解決策の検討
・担当する医療的ケア児および医療的ケア看護職員の把握の課題と解決策の検討
・正確で適切な情報共有のための配慮や工夫の検討</td><td>（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・組織分析、組織の変革、組織の意思決定
・人員配置、勤務計画
・ワークライフバランス、労働災害
・労務管理の課題
・ハラスメント対策
・ストレスマネジメント
・タイムマネジメント
・看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン（平成 30 年完成）
看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン（平成30年完成：日本看護協会）
https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/safety/hwp_guideline/index.html

・安全管理の実際と安全管理教育
・関係法令等
・災害対策</td></tr>
<tr><td>講師（例）</td><td colspan="2">教育委員会担当者（指導主事等）
教育委員会担当者（人事担当者等）
教育委員会担当者（情報管理担当等）
管理職
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
看護系学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
教育系学識経験者
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="3">2.　医療的ケア看護職員の支援</th></tr>
<tr><td rowspan="8">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.　医療的ケア看護職員の相談・助言の対応</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2.　学校や医療的ケア児の状況にあわせた対応</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3.　医療的ケア看護職員の心情に配慮した対話</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4.　医療的ケア看護職員の把握・理解</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">5.　医療的ケア看護職員の気づき・判断・行動の支援</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">6.　関係者と連携した相談・助言への対応</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">7.　所属を越えた医療的ケア看護職員への支援</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・教育委員会、学校等の体制
・医療的ケア看護職員の相談対応の体制（巡回体制・電話による相談体制等）
・地域の体制と医療的ケア看護職員の雇用勤務体制等
・地域の医療的ケアの実際と現在の課題
（知識•技術の強化）
・システム理論[※1]
・コンサルテーション（consultation）[※2]
・コミュニケーション（アサーション（assertion）[※3]・コーチング（coaching）[※4] 等）
・医療的ケア看護職員の抱えやすい悩みや課題等
・相談対応の基本姿勢
・動機付け[※6]
・情報の集約と整理等の情報管理
・医療的ケア看護職員の実践の分析方法
・医療的ケア看護職員のもつ技術の集約、体系化
・多職種連携、協働
・チームケア
・指導的な役割を担う看護師の実践報告
（議論•検討•事例検討等）
・担当する医療的ケア児および医療的ケア看護職員の把握の課題と解決策の検討
・医療的ケア児および医療的ケア看護職員の状況に合わせた柔軟な対応のための課題と解決策の検討
・所属を越えた医療的ケア看護職員の相談対応体制の課題と解決策の検討</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・フィジカルアセスメント（physical assesment）[※7]
・コーチング[※4]</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
看護系学識経験者
教育系学識経験者
心理学系学識経験者
情報管理に関する学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

研修項目	3. 医療的ケア看護職員の指導と育成	
期待される主な役割		チェック欄
	1. 医療的ケア看護職員への育成	
	2. 医療的ケア児を中心とした看護の指導	
	3. 他職種との連携についての指導	
	4. 教育現場に関わる指導	
	5. 成長発達という看護の視点の確認	
	6. 学校生活を支えることを目的とした医療的ケアの位置づけの確認	
	7. 多職種に医療的ケア看護職員への指導・助言の依頼	
主な学習内容（例）	**（既存のシステム•体制の理解）** ・自治体の医療的ケア看護職員研修等のしくみ、予算確保、開催までの流れ等 **（知識•技術の強化）** ・効果的なカンファレンス等の開催、運営 ・コミュニケーション ・小児看護（成長発達） ・看護計画の立案・実施・評価 ・医療的ケア看護職員への研修企画、実施、評価方法等 ・医療的ケア児についての指導方法（権利擁護、教育を受ける権利と義務等） ・医療的ケア児を中心とした看護 ・教育、学校生活を優先した医療的ケア看護職員の役割 ・学校教育について（法制度、学習指導要領、教育課程等） ・特別支援教育について（自立活動、個別の教育支援計画、個別の教育指導計画等）・教育現場の文化や言葉 ・教職員が捉える成長発達と教育計画 ・教職員、養護教諭等の役割 ・多職種連携（ポイント・好事例等） ・連携する他職種の理解 ・指導的な役割を担う看護師の実践報告 **（議論•検討•事例検討等）** ・医療的ケア看護職員への指導に係る組織内の体制および課題の検討 ・多職種連携において多くみられる課題と解決策の検討 ・教育現場で医療的ケア看護職員が戸惑いがちな点と指導方法等の検討 ・成長発達に合わせた医療的ケア方法の検討 ・病院と学校の違いについての指導方法の検討 ・他職種に医療的ケア看護職員の指導を依頼する際の具体的内容とポイントの検討 ・適切な研修ニーズの把握および研修の評価方法の検討 ・研修テーマに沿った講師、講義、時期等の検討 ・多職種や保護者等、職種や所属を超えた研修開催の検討	**（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））** ・カンファレンス等の効果的なファシリテーション（facilitation）※5
講師（例）	教育委員会担当者 教職員等（教務主任、自立活動教諭等） 養護教諭 看護系学識経験者 教育系学識経験者 看護協会の看護管理研修講師 コミュニケーションに関する資格を有する外部講師 指導的な役割を担う看護師　　等	

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="3">4. 組織としての医療的ケアの管理</th></tr>
<tr><td rowspan="8">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 医療的ケアガイドラインの作成と評価への参画</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 新たな情報活用</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 医療的ケアに関する委員会への参加</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 学校間の情報共有と情報を活用した相談対応</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">5. 多角的な情報からの課題検討</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">6. 所属を越え広く情報収集</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">7. ヒヤリ・ハット対応</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・所属先や自治体等の医療的ケア提供体制整備のための委員会の役割
・自治体における情報の取扱い

（知識•技術の強化）
・他自治体や全国の医療的ケアの実態
・医療的ケアガイドラインや緊急対応マニュアルの策定について（ポイント・好事例等）
・情報管理
・多職種の役割とそれぞれの視点についての理解
・組織内外の医療的ケアに関する実態調査方法
・ヒヤリ・ハットおよびヒヤリ・ハット分析
・事故防止対策
・適切かつ正確な情報収集方法
・指導的な役割を担う看護師の実践報告

（議論•検討•事例検討等）
・最新の情報収集と周知方法の検討
・学校間の情報共有システム構築の検討
・多職種と連携した情報共有方法の検討
・多職種と協働した医療的ケア実施方法の検討
・情報の活用の検討</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・問題解決思考・過程
・看護の質評価
・ガイドライン等の策定に向けた看護理論や枠組みの活用
・医療安全にかかわる関連法規（医療法等）</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
看護系学識経験者
教育系学識経験者
情報管理に関する学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
看護協会および医師会等の医療安全管理委員会担当者指導的な役割を担う看護師　等</td></tr>
</table>

研修項目	5. 認定特定行為業務従事者を含む教職員の支援	
期待される主な役割		チェック欄
	1. 教職員の相談・助言への対応	
	2. 教職員の医療的ケアに関する知識や技術への支援	
	3. 教職員との対話	
	4. 教職員の気づきや行動の支援	
	5. 教職員の視点の尊重	
主な学習内容（例）	**（既存のシステム•体制の理解）** ・教員、養護教諭、管理職等の役割 ・学校における災害対策の取り決め等 **（知識•技術の強化）** ・学校組織 ・教育の場である学校について ・教育現場の文化や言葉 ・学校教育について（授業づくり、生徒指導） ・特別支援教育について （実態把握、教材・教具の工夫、ICT活用等） ・教職員の継続教育プログラム等 ・多職種間のコミュニケーションの工夫や配慮 ・多職種それぞれの視点の理解 ・コンサルテーション※2 ・アサーション※3 ・動機付け※6 ・指導的な役割を担う看護師の実践報告 **（議論•検討•事例検討等）** ・教職員への医療的ケアの説明方法の検討 ・成長発達に合わせた医療的ケア方法とその共有方法の検討 ・学校における災害対策等の課題の検討	**（巻末参考資料より参考となる研修項目**（一部抜粋）**）** ・多職種理解 ・多職種の専門性 ・看護の専門性 ・情報伝達
講師（例）	教育委員会担当者 教職員等（教務主任、自立活動教諭等） 養護教諭 看護系学識経験者 教育系学識経験者 看護協会の看護管理研修講師 コミュニケーションに関する資格を有する外部講師 指導的な役割を担う看護師　　等	

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="3">6. 校内の多職種との連携•協働</th></tr>
<tr><td rowspan="7">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 教職員と医療的ケア看護職員の協働の支援</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 多職種連携のコーディネーター</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 看護職員の代表としての多職種連携の実践</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 医療的ケア児を中心とした協働</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">5. 調整上の多職種への配慮</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">6. 組織内の報告・情報共有</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・教職員、養護教諭、管理職等の役割

（知識•技術の強化）
・学校組織
・学校教育について（校務分掌の仕組み）
・特別支援教育について（障害のある児童生徒がかかわる関係機関、個別移行支援計画等）
・指導的な役割を担う看護師とは
・相手の思いを引き出すコミュニケーション
・医療的ケア児を中心とした看護
・多職種それぞれの役割と視点の理解
・合意形成
・指導的な役割を担う看護師の実践報告

（議論•検討•事例検討等）
・教職員と医療的ケア看護職員の関係性の把握方法の検討
・教職員と医療的ケア看護職員の情報共有や意見交換方法の検討
・多職種間の合意形成方法の検討
・多職種連携において多くみられる課題と解決策の検討</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・チームのコーディネーション
・倫理調整（倫理原則）
・合意形成
・交渉術
・ファシリテーション※5</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
看護系学識経験者
教育系学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>研修項目</td><td colspan="3">7．学校医や主治医等との連携•協働</td></tr>
<tr><td rowspan="4">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1．学校医や主治医等との協働体制構築</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2．学校医や主治医等との連携・調整</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3．学校医や医療的ケア指導医等の巡回同行・調整</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・主治医等医療的ケア児を担当する医療機関や関係者
・自治体における医療機関や主治医への報告や指示等に関する仕組み（指示命令系統、報告システム、受診同行等）
・自治体における学校医や医療的ケア指導医等の役割と仕組み（指示命令系統、報告システム、巡回同行等）

（知識•技術の強化）
・コミュニケーション
・説明力
・医療的ケア児についての医学的知識に基づく理解
・医療的ケアに関する課題抽出と検討のプロセス
・指導的な役割を担う看護師の実践報告

（議論•検討•事例検討等）
・主治医や医療機関等との連携における課題と解決策の検討
・受診同行の必要性を判断する際の課題と解決策の検討
・安全で確実かつ学校生活に馴染む視点の医療的ケア方法の検討</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・他職種の専門性
・看護の専門性
・他職種の理解</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
学校医、主治医等の医療的ケア児を担当する医師
医療的ケア児を担当する医療機関の窓口（連携室の看護師等）
看護系学識経験者
教育系学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
看護協会および医師会等の医療安全管理委員会担当者
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
医療的ケア児を担当する訪問看護師、放課後等デイサービス担当者
医療機器業者
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="3">8.　医療的ケア児の学校生活の総合的な支援</th></tr>
<tr><td rowspan="5">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.　医療的ケア児への関わり</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2.　安全で確実な医療的ケアの実践</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3.　限られた時間内での医療的ケア児の情報収集とアセスメント</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4.　児童生徒の障害の状態や必要となる医療的ケアの内容の判断とその共有</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・医療的ケア看護職員の所属先（学校等）の医療的ケア児・看護職員の配置状況等
・医療的ケア看護職員の相談対応の体制（指導的な役割を担う看護師の巡回体制・電話による相談体制等）
（知識•技術の強化）
・小児看護（成長発達、心身状態等）
・最新の医療知識（治療、機器、技術等）
・医療的ケア児とのコミュニケーションの配慮と工夫
・安全で確実な医療的ケア技術（人工呼吸管理、排痰管理、胃ろう管理等）
・成長発達を踏まえた長期的視点に基づくアセスメント
・教育現場で行われる医療的ケア児のアセスメント
・校外活動等の支援とリスク管理
・医療的ケア児の生活と地域資源の理解（訪問看護、放課後等デイサービス等）
・指導的な役割を担う看護師の実践報告
（議論•検討•事例検討等）
・医療的ケア技術の実践と指導方法の検討
・限られた時間での医療的ケア児の情報収集と現状把握方法についての検討（医療的ケア児本人、医療的ケア看護職員、教員、保護者等から）
・医学的知識に基づいたアセスメント方法の検討
・適切なアセスメントのための情報収集方法の検討（医療的ケア児本人、医療的ケア看護職員、教職員、保護者等から）
・アセスメント結果の共有方法と配慮の検討（医療的ケア看護職員、教職員、保護者等）
（演習）
・医療的ケア技術演習</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・フィジカルアセスメント※7
・緊急時対応技術
・ケアの受け手の全体像の論理的整理：看護理論の活用等
・保健医療の動向
・診療報酬、障害福祉サービス等
・行政との調整が必要な社会資源

（参考資料）
「小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～」（令和 3 年 6 月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）
https://www.mext.go.jp/content/20211014-mxt_tokubetu02-000016489_1.pdf</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
学校医、主治医等の医療的ケア児を担当する医師
看護系学識経験者
教育系学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
看護協会および医師会等の医療安全管理委員会担当者
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
医療的ケア児の保護者
医療機器業者
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>研修項目</td><td colspan="3">9. 保護者を尊重した支援</td></tr>
<tr><td rowspan="6">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 保護者との対話</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 保護者の心情の理解</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 保護者からの相談対応・情報共有</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 保護者との医療的ケアに関する調整</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">5. 家族主体の支援</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・保護者との連絡窓口等、関わりのしくみ

（知識•技術の強化）
・小児看護
・医療的ケア児支援法等の制度
・医療的ケア児の保護者の心理
・医療的ケア技術の知識
・医療的ケアのリスク管理
・正しい医学的知識に基づく医療的ケア方法のアセスメント
・保護者を尊重した医療的ケア実施の支援
・保護者と医療的ケア児の間で確立した医療的ケア方法の理解
・保護者と医療的ケア児のこれまでの歴史の理解
・指導的な役割を担う看護師の実践報告

（議論•検討•事例検討等）
・保護者との対話のための課題と解決策の検討
・保護者の心情に配慮したコミュニケーションの検討
・保護者の負担に配慮した情報共有方法の検討
・教育現場に合った医療的ケア方法の検討（多職種からの情報収集等）
・保護者を尊重した医療的ケアに関する提案方法の検討</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・倫理的課題に対するアプローチ
・介護力のアセスメント</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者
教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
養護教諭
管理職
学校医、主治医等の医療的ケア児を担当する医師
看護系学識経験者
教育系学識経験者
看護協会の看護管理研修講師
医療的ケア児を担当する訪問看護師、放課後等デイサービス担当者
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
医療的ケア児の保護者
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>研修項目</th><th colspan="3">10. 地域の特性や資源に応じた連携•役割</th></tr>
<tr><td rowspan="4">期待
される
主な役割</td><td colspan="2"></td><td>チェック欄</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 地域の特性や資源の把握</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2. 地域との連携強化</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">3. 地域連携による医療的ケア児の支援</td><td></td></tr>
<tr><td>主な
学習内容
（例）</td><td>（既存のシステム•体制の理解）
・自治体が求める指導的な役割を担う看護師
・自治体独自の医療的ケア看護職員と指導的な役割を担う看護師の配置や役割等
・自治体におけるフォーマル、インフォーマルな社会資源等

（知識•技術の強化）
・医療的ケア児を取り巻く関係機関等について
・医療的ケア児支援法等の法令について
・医療的ケア看護職員の実践
・医療的ケア児とは
・保護者への支援とは
・指導的な役割を担う看護師とは
・訪問看護や放課後等デイサービス等医療的ケア児の生活を支える地域サービスの理解
・指導的な役割を担う看護師の実践報告

（議論•検討•事例検討等）
・広報の場と方法の検討
・自治体における指導的な役割を担う看護師としての活動の検討
・地域の訪問看護等 看護職間の連携構築(看看連携)の検討
（演習）
・訪問看護との同行や放課後等デイサービス等の見学等</td><td colspan="2">（巻末参考資料より参考となる研修項目（一部抜粋））
・保健医療の動向
・行政との調整が必要な社会資源
・地域の把握</td></tr>
<tr><td>講師
（例）</td><td colspan="3">教育委員会担当者（医療的ケア看護職員担当）
教育委員会担当者（広報担当）
コミュニケーションに関する資格を有する外部講師
看護系学識経験者
医療的ケア児を担当する訪問看護師、放課後等デイサービス担当者
指導的な役割を担う看護師　　等</td></tr>
</table>

（注釈）

※１　システム理論

対象の構成要素間の相互依存関係を明示的に分析しようという考え方。構成要素間にある、ある種の関係をいかに分析するか、という接近法や考え方。〔日本大百科全書（ニッポニカ）（一部抜粋）（令和４年３月８日時点)〕

※２　コンサルテーション（consultation）

相談。協議。専門家の診断や鑑定を受けること。〔辞典・百科事典の検索サービス ―Weblio 辞書 デジタル大辞泉（令和年３月８日時点）〕

※３　アサーション（assertion）

より良い人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルの一つで、「人は誰でも自分の意見や要求を表明する権利がある」との立場に基づく適切な自己主張のこと〔辞典・百科事典の検索サービス ―Weblio 辞書　人事労務用語辞典　（一部改変）（令和３年３月８日時点）〕

※４　コーチング（coaching）

自分で考えて行動する能力をコーチと呼ばれる相談役との対話の中から引き出す自己改善技術。1990 年代に米国で社員育成技法として始まる。〔辞典・百科事典の検索サービス ―Weblio 辞書 デジタル大辞泉（令和年３月８日時点）〕

※５　ファシリテーション（facilitation）

「目的達成」、「時間」、「人の力活用」という３要素を最適化しながら、議論や学習、交流などの進行を促す「機能」である。〔辞典・百科事典の検索サービス ―Weblio 辞書　マネジメント用語集（一部改変）（令和３年３月８日時点）〕

※６　動機付け

心理学で、生活体に行動を起こさせ、目標に向かわせる心理的な過程をいう。内的要因と外的要因の相互作用で成立する。モチベーション。〔辞典・百科事典の検索サービス ―Weblio 辞書　デジタル大辞泉（令和年３月８日時点）〕

※７　フィジカルアセスメント（physical assessment）

医師や看護師、病院薬剤師などが、患者の体に直接触れることで診察や症状の把握などを行うことを意味する語。打診、聴診、触診などを総称する語である。〔辞典・百科事典の検索サービス ― Weblio 辞書 実用日本語表現辞典（一部改変）（令和３年３月８日時点）〕

5 研修企画のプロセス

本研修企画のプロセスは、指導的な役割を担う看護師のこれまでの職務経験やニーズ、自治体の状況等により柔軟に研修を企画できるよう作成しました。企画の流れを Step1～5 で説明しています。

step1 研修ニーズの把握、 step2 目的・目標の設定、 step3 受講対象者の決定、 tep4 研修項目と学習内容の検討、 step5 研修方法の選択という構成です。以下に活用方法を示します。

以下、受講の対象となる指導的な役割を担う看護師、または今後指導的な役割を担うことが期待される医療的ケア看護職員を「受講者」という。

step1 受講者や所属先等の研修ニーズの把握

受講者の研修ニーズを把握する。研修ニーズは看護師としての職務経験等の背景により様々であるので、研修の内容や目的・目標を検討する上で非常に重要である。※ また、教育委員会や所属先が受講者にまず期待する指導的な役割からも研修ニーズ検討する。	以下のいずれかを選択する チェック欄
・受講者と面接で確認	
・所属長等から聞き取りにより確認	
・受講者にアンケート調査等で確認	
・教育委員会や所属先が希望する研修の検討	

※指導的な役割を担う看護師の経験に合わせた研修項目選択		
指導的な役割を担う看護師職務の経験により、「総論」の受講の必要性を判断する。		
受講者が、初めて学校における医療的ケアに関わる、または初めて自治体に所属する等	チェック欄	→ 「総論」受講後、「各論」受講
受講者が、「総論研修」受講後、または既に指導的な役割を担っている	チェック欄	→ 「各論」から検討する

step2 目的・目標の設定

受講者のこれまでの職務経験や研修ニーズ、各自治体の状況等に合わせ設定する	2点共に検討する チェック欄
・受講者のこれまでの職務経験や研修ニーズ（step1で確認）の確認	
・自治体の現状や課題の分析	

step3 受講対象者の決定

主な受講対象者は指導的な役割を担う看護師であるが、研修目的・目標や講義内容等によっては、より効果的な研修機会とするために教職員等の協働する多職種や関係機関等の参加等も検討する	以下のいずれかを選択する チェック欄
・指導的な役割を担う看護師	
・学校内で連携する教職員等	
・所属外で連携する関係機関の多職種等	

step4 研修項目と学習内容の検討

① 研修項目の中から受講者の研修ニーズや目的・目標に合った項目を選択
② ①で選択した研修項目の「期待される主な役割」の中から受講者の研修ニーズや目的・目標に合った項目を選択
③「主な学習内容（例）」の中から受講者の研修ニーズや目的・目標に合った項目を選択
④ 選択した要素に合った講師を「講師（例）」を参考に検討

の手順で検討することを想定しています。

<table>
<tr><td colspan="2">研修項目の中から目的・目標に沿った学習内容を選択する。効果的な研修を実施するためにも、期待される主な役割の整理および位置づけを明確にし、研修でおさえる必要がある。</td></tr>
<tr><td>①
研修
項目</td><td>例）1. 医療的ケア看護職員のための医療的ケア実施体制整備</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②
期待
される
主な
役割</td><td>期待される主な役割の整理および位置づけを明確にし、研修でおさえる。</td></tr>
<tr><td>例）</td></tr>
<tr><td>1. 医療的ケア看護職員の相談対応のための連絡体制の整備</td></tr>
<tr><td>2. 医療的ケア看護職員の業務調整</td></tr>
<tr><td>3. …</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③
主な
学習
内容
（例）</td><td>主に4つの項目にカテゴライズしている。受講者の研修ニーズや目的・目標に合った項目を選択する。全てから選択する、またはいずれかを選択する等、様々な形態が考えられる。</td></tr>
<tr><td>例）
（既存のシステム•体制の理解）
・自治体、教育委員会、学校等の体制
・医療的ケア看護職員の所属先（学校等）の医療的ケア児・看護職員の配置状況等
・…
（知識•技術の強化）
・PDCAサイクル（問題解決思考）
・情報漏洩、紛失等のリスク管理
・多職種協働
・…
（議論•検討•事例検討等）
・自治体における医療的ケア看護職員の相談対応体制の課題と解決策の検討
・医療的ケアの安全と質確保のための配置体制への配慮等の検討
・…
（演習）
・医療的ケア技術演習
・…</td></tr>
<tr><td rowspan="2">④
講師
（例）</td><td>選択した要素に合った講師を「講師（例）」を参考に検討する。自身の自治体内で講師確保が難しい場合は、他自治体や他組織の講師招聘を含め検討する。既に講義を受講した指導的な役割を担う看護師を講師とすることも検討する。</td></tr>
<tr><td>例）
・教育委員会担当者（指導主事等）
・管理職
・教職員等（教務主任、自立活動教諭等）
・看護系学識経験者
・指導的な役割を担う看護師
・…</td></tr>
</table>

step5 研修方法の選択

これらの中から受講対象者の参加しやすさや研修目的・目標や研修の内容等により適宜選択する	チェック欄
・講義（Webライブ配信）	
・講義（Webオンデマンド配信） ※既存の研修教材の活用も含む	
・講義（集合）	
・グループワーク（Web）	
・グループワーク（集合）	
・技術演習	
・OJT	
・他機関等への見学、同行等	

6 活用事例の紹介

本事例は、初めて学校に所属し、指導的な役割を担うことになった看護師を対象とした研修企画の流れです。指導的な役割を担う看護師を担当する教育委員会等が企画をする流れの事例を紹介します。指導的な役割を担う看護師の研修実施を担当する教育委員会等が企画をする流れの事例を紹介します。

これから指導的な役割を担う看護師：A さん

【これまでの経験】

看護師経験：約 20 年（主に私立病院の病棟と外来勤務）
　うち小児看護経験：10 年（小児科病棟勤務）
　うち学校勤務経験：なし

【指導的な役割を担う看護師になるまでの経緯】

子育てがひと段落し就職先を探していた際、B 県の教育委員会が看護師を募集していることを知り応募した。指導的な役割を担う看護師として採用され、県内 6 校の特別支援学校の医療的ケア看護職員に対し、巡回指導や相談対応をするよう任命された。

学校勤務経験はない。病院勤務の時は副師長まで経験した。小児科病棟勤務時に、人工呼吸器や重症心身障害児の担当はしていたが、病院以外で医療的ケア児に接したことはない。

なお、B 県では既に 2 人の指導的な役割を担う看護師を配置している。

step1 研修ニーズの把握

これまで教育委員会としては、初めて学校における医療的ケアに関わる看護師には基本的な手技を指導する方針でした。今回は、採用時に A さんと面接をして研修の希望を確認しました。A さんからは、これまで小児看護経験はあるものの、学校における医療的ケアの実践経験がないため指導には自信がないこと、学校や行政に勤務した経験がないため基礎から勉強したいとの希望がありました。この希望も合わせ、今回は学校教育や行政に関する基本的な知識（以下、「総論」という。）を対面で学ぶ研修（以下、「総論研修」という。）を企画することになりました。

step2 目的•目標の設定

B 県教育委員会では、学校における医療的ケアを確実に実施できる体制を整備するために、医療的ケア看護職員の質の向上を目指していました。そこで、現場の医療的ケア看護職員の声を聞き、個別に対応してくれる人材を探していました。A さんは小児科経験が長いことと、副師長の経験があるため、適切なアドバイスができると考えました。しかし、A さんには行政での就労経験がないことや、教育や学校に関する経験や知識がないことから、まずは学校教育に関する基本的な知識について研修する必要があると判断しました。

そこで、教育委員会担当者は A さんと相談し、まずは「所属する組織と自身の役割を理解する」ことを目標としました。

step3 研修対象者の決定

B 県には指導的な役割を担う看護師が A さん以外に 2 人いますが、研修内容を踏まえて、総論研修の受講者 は、A さんのみとしました。

step4 研修項目と学習内容の検討

step1 で把握した A さんの研修ニーズや、step 2 で A さんの研修ニーズに加え教育委員会として A さんに期待する役割を踏まえて設定した目標から、まず総論研修を受講することになりました。Aさんが、これまで行政機関や学校での就労経験がないことや、教育や学校に関する経験や知識がないことを踏まえ、総論研修の中の「主な学習内容（案）」のうちの、行政を理解するための「既存のシステム・体制の理解」、学校組織や学校における医療的ケアを理解するための「知識・技術の強化）」、Aさんの意見も踏まえ実践をより具体的にイメージするための議論の場である「議論・検討・事例検討等」、現場に出てからの実践を支援するための「演習」いずれも受講することになりました。以上のような背景を踏まえ、「既存のシステム・体制の理解」の講師は教育委員会特別支援教育課の指導主事、「知識・技術の強化」および「議論・検討・事例検討 等」の講師は C 特別支援学校の校長と同校に勤務する自立活動教諭および先輩の指導的な役割を担う看護師、「演習」は、4 月中の 1 か月間、先輩の指導的な役割を担う看護師の業務に同行しOJTを行うことになりました。

step5 研修方法の選択

A さんの目標に照らした研修を行うにあたり、A さんが現在有している専門性を把握しながら進めることを考え、総論研修を開催する計画としました（step1）。

その後は、先輩の指導的な役割を担う看護師と同行して学ぶ OJT（On the Job Training 職場訓練。以下OJTという。）の機会や、先輩の指導的な役割を担う看護師と話し合うグループワークの機会等、数回に分けて研修することを計画しました。

（その後…）

段階的な指導計画

今回は、一度に多くのことを学習することによる A さんの混乱を避けるため総論研修のみの計画としましたが、その後、各論については段階を踏んだ指導計画を立てることにしました。その際、自治体で A さんから把握した研修ニーズと、教育委員会が A さんに期待する役割を参考に各論研修受講の順序を考えました。

また、他の指導的な役割を担う看護師を含め、3 年毎には全ての研修を受けることができるよう現任教育の長期計画を立てました。

参考資料

☆参考：「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」に基づく学習内容」日本看護協会
https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/fukyukeihatsu/guidance03_0109.pdf

☆参考：「病院看護管理者のマネジメントラダー　日本看護協会版」日本看護協会
https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/nm_managementladder.pdf

令和3年度　文部科学省委託事業
学校における医療的ケア実施体制充実事業
（医療的ケアのための看護師に対する研修機会の確保）
指導的な役割を担う看護師に求められる研修の全体像（案）

令和4（2022）年3月
発行・編集　公益財団法人 日本訪問看護財団
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-8-2
日本看護協会ビル5階
TEL.03-5778-7001　FAX.03-5778-7009
https://www.jvnf.or.jp